



町内会短信 10月号

2022年10月1日 川浴中央第一町内会長 金山征晴

神無月

9月19日英国エリザベス女王の国葬が行われました。関係はありませんが日本では「敬老の日」。以前は毎年敬老会を開催してきましたが、昨年引き続き記念品贈呈に代えさせて頂きました。いろいろな事情により出たくても出られない方もいらっしゃるの、その方が良いのではという考え方もありますが、お互いに顔を合わせて旧交を温めることも捨てがたい。難しい課題ではあります。

9月・10月の活動報告及び活動予定については下記の通りです。

9月の町内会活動報告

- 9月 2日(金) **新会長ビデオ撮影(HP「藻岩の暮らし」用)**
- 9月 7日(水) **ふれあいガーデン整備**
- 9月 9日(金) **三役会 (会長・副会長・福祉部長)**
- 9月 11日(日) **こども御輿(みこし) (3名参加)**
- 9月 14日(水) **町内会資源回収 / どんぐり公園清掃 (Eグループ)**
- 9月 17日(土) **連町パークゴルフ大会 (8名参加)**
- 9月 20日(火) **事業検討委員会**
- 9月 21日(水) **ふれあいガーデン整備**
- 9月 28日(水) **どんぐり公園清掃 (Aグループ) / 交通安全啓発活動**

10月の町内会活動予定

- 10月 5日(水) **ふれあいガーデン整備 (8:30)**
- 10月 8日(土) **町内会パークゴルフ大会 (9:30 藻南公園C)**
- 10月 11日(火) **事業検討委員会**
- 10月 12日(水) **町内会資源回収 / 緊急貯水槽説明会(水道局) /
どんぐり公園清掃 (Bグループ 9:30)**
- 10月 19日(水) **ふれあいガーデン整備 (8:30)**
- 10月 21日(金) **連町理事会 (地区センター)**
- 10月 26日(水) **どんぐり公園清掃 (Cグループ 9:30)**

訃報

石崎 行希雄さん(享年91歳) 川浴8条3丁目 9月12日逝去

裏面へ 

いま私が持っている黄色の皮財布の根付に愛らしい銀色の鈴の根付がついている。お財布を取り出す度にリンリンと可愛らしい音を鳴らす。その音色に私の心は和む。送り主は町内会体育部長の和仁ひろみさんである。この根付は3ヶ月間体育部主催の自主筋トレに休まず励んだご褒美である。2ヶ月目には冷感タオル、そして3ヶ月目の最終月に、可愛いメモ書きと共に和仁部長が直接我が家にこのご褒美を届けてくれた。コロナで来客も途絶えがちな我が家への貴重なお客さんである。お手製の野生のドングリの実を主材にした可愛い手芸品を付けた銀色の鈴。お仕事を持つ忙しい身できっと一つ一つ丹念に手造りされたであろうこの根付は今の私の大切な宝物となった。若い町内会役員の方々にも今後を託す老いの身としては、素晴らしい担い手たちが続々と現われる我が町内会の未来は明るい。

郷土史より（視野を広げて）松浦武四郎と北海道（1）

郷土歴史家 吉田邦行



蝦夷地の広大な未開の原野をくまなく歩き、詳細な調査を行い、地図を作り気候・風土・アイヌ民族を記録した人物、それが松浦武四郎である。

武四郎は、伊勢国一志郡雲津川南須川村(三重県松坂市)の旧伊勢街道に生家がある。代々庄屋を務める裕福な家で、4人兄弟の末っ子として生まれた。幼いころから伊勢神宮に参拝する旅人を見て育った。数え年7歳から禅僧・来応に学び各地の名所・名跡などの知識を受けたことにより、旅心が芽生え10歳ごろから諸国遍歴の志を抱くようになった。そして旅に関する本を読み出す。それは江戸時代の観光案内の「名所図会」であった。その本は絵をふんだんに使い、各地の町や名所・名跡を紹介するものであった。本を眺めながらまだ見ぬ世界にあこがれた。16歳になると置き手紙をし、家出同然で江戸に向かった。江戸に着いてからは、奉公先を見つけしばらく働くが、親の許可なく出てきたことが分かり、解雇されてしまう。江戸から帰って今度は再び旅に出る許可を願う。父親は「旅に出ると言ってもまだ17歳。2~3ヶ月すれば戻ってくるだろう」と二度目の旅を許した。しかし、武四郎が故郷の地を踏んだのは、両親も亡くなっていた10年後のことであった。本州、四国、九州の名所・名跡、山岳など、ほとんどくまなく回り、それは全国行脚の旅であった。そして多くの旅日記を著した。武四郎は、旅に出る前に路銀をどう工面するかだった。そこで考えたのは自分の特技を活かすことであった。絵図、俳諧も未熟で断念。思いついたのは篆刻(テンコク=印を彫ること)であった。未熟でも全国に篆刻師はまれ、習いたくても師匠はいない。そこで腹をくくる。「まだ知られていないことはどこでも通用する」と。もう一つ特技があった。旅先から伊勢神宮に参拝する人達に手紙を託し、生家に「どうか一晩泊めて下さい、畑で採れた野菜でご馳走してください」。知人がお伊勢参りに行くので、もてなすよう頼む内容であった。ということは武四郎も旅先で世話になっている証であった。武四郎の強みは社交的で会話好き、それに伊勢出身が身を助けた。全国の人々が一生に一度は参拝に訪れたいと思う伊勢神宮と、その道中の情報を提供できることである。(次号につづく)